

農山村SWGの検討方針案

参考資料 1

• 本SWGのミッション

- 低炭素社会の実現に資する農山村地域の形成に向けて関連政策の道筋を提案。
- 政策推進の根拠となる温室効果ガスの中長期削減目標の達成に向けてロードマップを作成。

ロードマップの構成要素

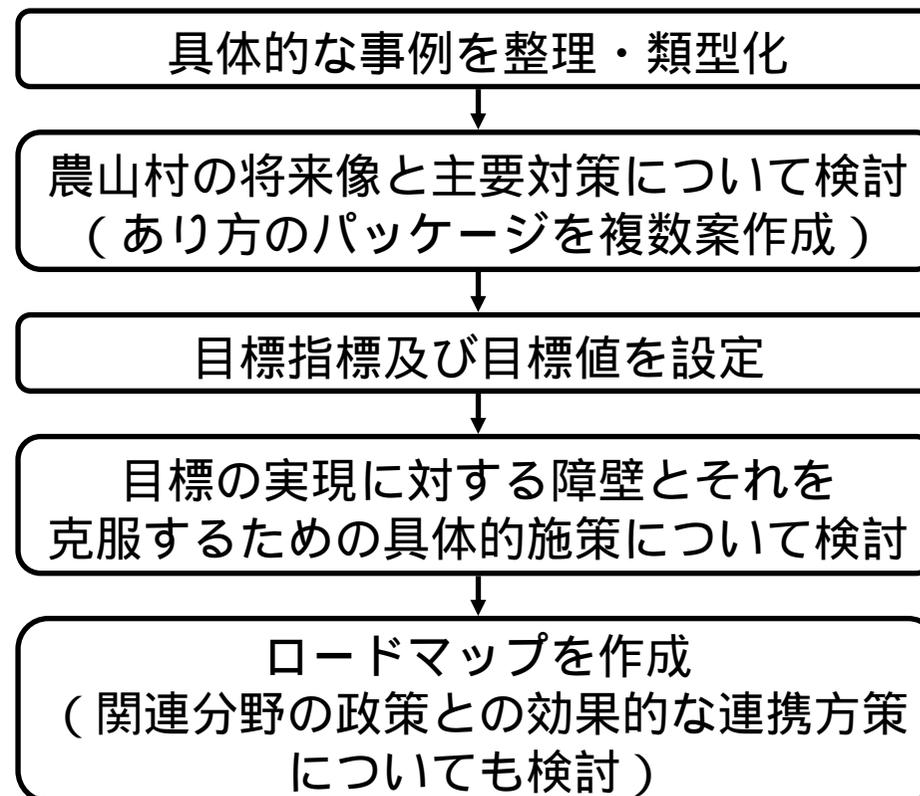
- 2050年におけるビジョン（Vision）、目標値（Benchmark）とそれを実現するための道筋
 - 2020年までに取り得る対策とその削減効果の評価（可能な限り定量的に実施）
 - それぞれの対策を実行するための障壁（Barrier）、障壁を克服するための施策（Policy Options）、対策や施策の導入費用など
- 都市と農山村との連携に着目し、地域づくりWGにおける検討内容と調整。

検討にあたっての基本的な考え方と手順

• 基本的な考え方

- 検討は「地域づくり」の視点から行うこととする（どのような農山村地域を形成すれば、農林業や運輸といった個別分野の対策を効率的に推進できるかに着目）。
- 全国の農山村を単一に取扱うのではなく、地域の特性についても充分留意する。
- 検討では、具体的事例に関する情報（環境モデル都市、バイオスタウン等）を最大限活用する。効果の評価についても、事例に基づき可能な限り定量化を行う。
- 対策について検討する際には、低炭素化以外の副次的効果にも着目する（基本的な生活・産業基盤を損なわないように配慮）。

• 検討手順

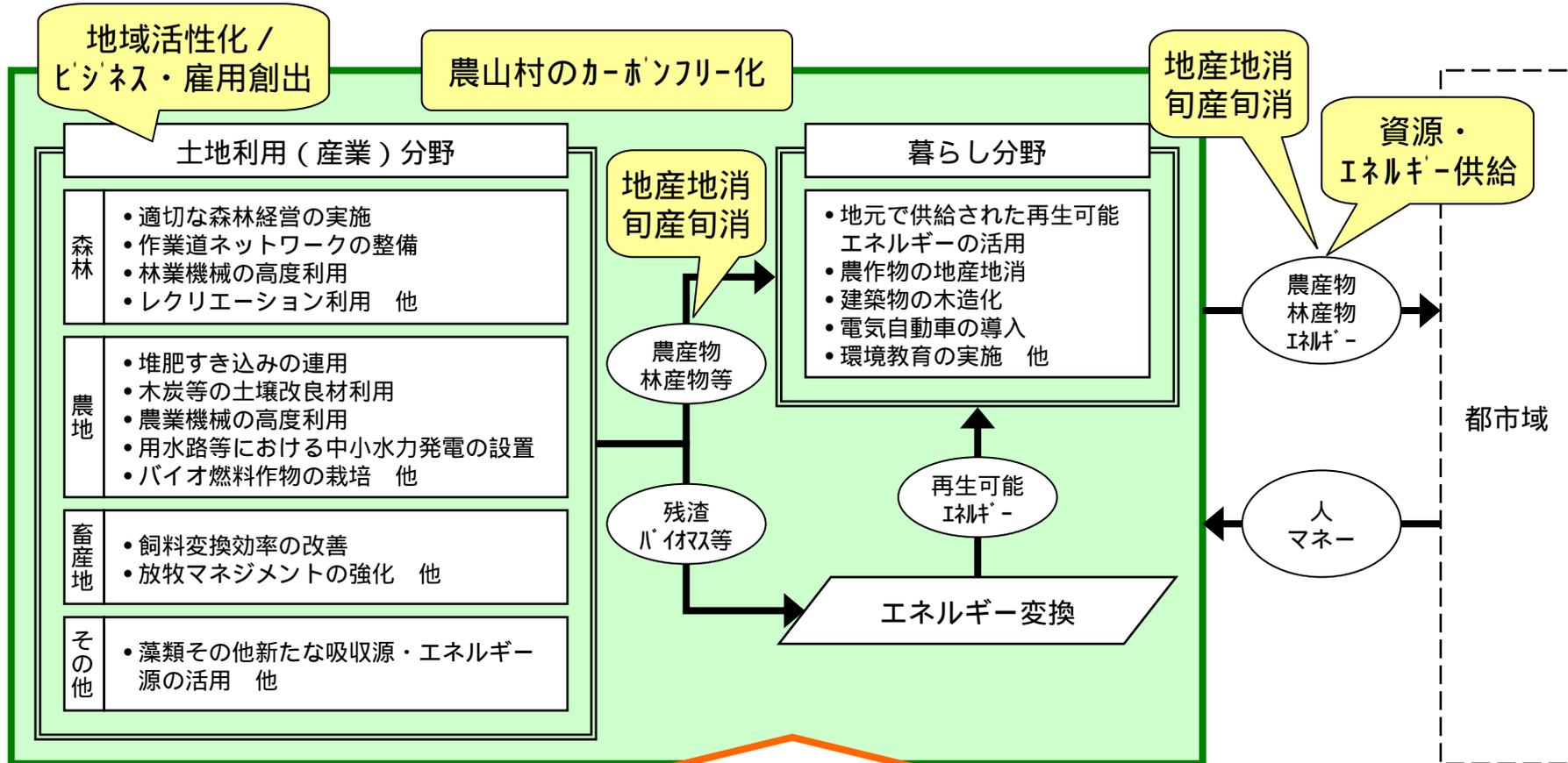


あり方パッケージ
のイメージ

農山村地域の形成に向けた基本戦略案

- カーボンフリーな農山村生活の実現
- 農山村地域の活性化・ビジネス振興と雇用の創出

- 都市域への資源・エネルギー供給
- 都市域との連携を通じた地産地消・旬産旬消



各種支援措置

(カーボンオフセットシステムの導入、バイオマス資源の用途開発、規格・規制の見直し、各種助成制度等)

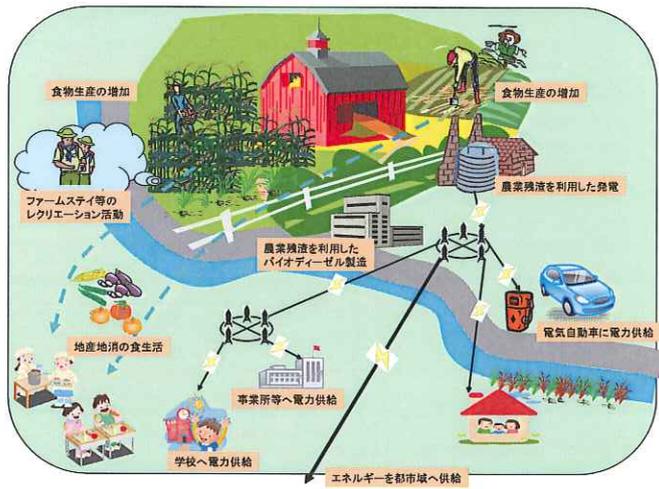
アウトプットイメージ①

■農山村地域の将来像（2050年）

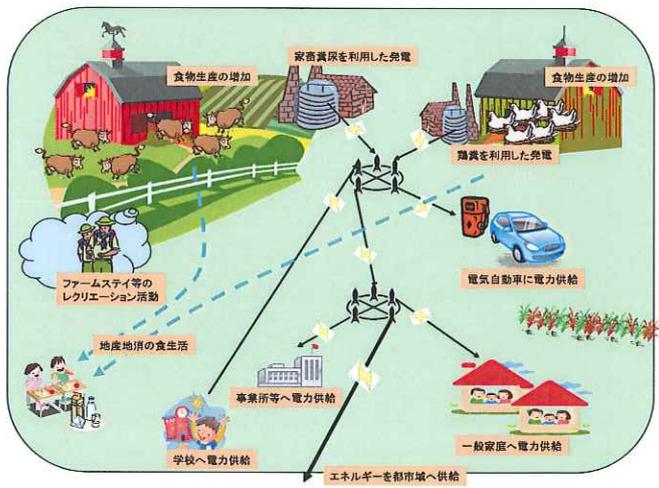
山村・林業型



農村・農業型



農村・畜産型



アウトプットイメージ②

■ 将来像の実現に向けた目標指標

－山村・林業型

	目標指標	2050年
土地利用 (産業)	素材生産量	△△ [t/yr]
	未利用バイオマスのエネルギー利用率(林地残材等)	△△ [%]
暮らし	木材製品利用率(建築物、家具等)	△△ [%]
	地場農作物の使用割合	△△ [%]
	再生可能エネルギー利用率	△△ [%]
	電気自動車の普及率	△△ [%]

－農村・農業型

	目標指標	2050年
土地利用 (産業)	堆肥すき込み量	△△ [t/yr]
	有機質資材の土壌改良利用量	△△ [t/yr]
	未利用バイオマスのエネルギー利用率(農作物残渣、食品廃棄物等)	△△ [%]
暮らし	木材製品利用率(建築物、家具等)	△△ [%]
	地場農作物の使用割合	△△ [%]
	再生可能エネルギー利用率	△△ [%]
	電気自動車の普及率	△△ [%]

－農村・畜産型

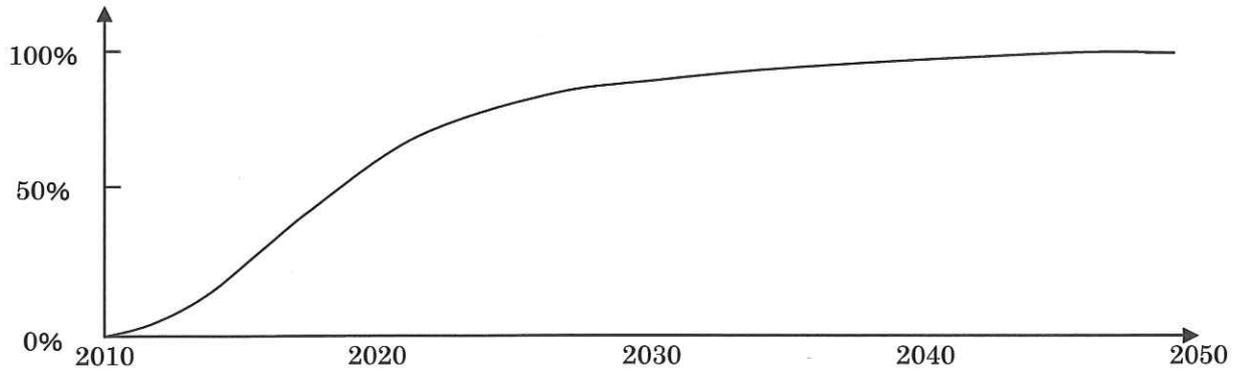
	目標指標	2050年
土地利用 (産業)	未利用バイオマスのエネルギー利用率(家畜糞尿等)	△△ [%]
暮らし	木材製品利用率(建築物、家具等)	△△ [%]
	地場農作物の使用割合	△△ [%]
	再生可能エネルギー利用率	△△ [%]
	電気自動車の普及率	△△ [%]

※ 類型ごとの指標・目標はあくまでも日本全体として平均的な姿であり、個々の地域がすべて画一的に満たすべきものではない。

※ 都市域との連携に係る指標を含め、目標指標の選定は今後検討が必要。

アウトプットイメージ③

■ 将来像を実現する地域の割合



■ 排出削減量

